

目次

ごあいさつ

代表校 明石工業高等専門学校 校長あいさつ	3
ステークホルダーあいさつ	4

1. 事業概要

事業概要	5
------	---

2. 防災リテラシー教育

教育プログラムの構築	10
------------	----

3. 各高専の取組

明石工業高等専門学校の取組	
①人とのつながり再生プロジェクト	20
②救急救命講習	21
③仮設住宅のコミュニティスペースとなる地元材を利用したウッドデッキ建設	22
④災害時緊急無線プロジェクト	25
舞鶴工業高等専門学校の取組	26
奈良工業高等専門学校の取組	
奈良工業高等専門学校の取組①	29
奈良工業高等専門学校の取組②	34
和歌山工業高等専門学校の取組	37
大阪府立大学工業高等専門学校の取組	41
神戸市立工業高等専門学校の取組	45
近畿大学工業高等専門学校の取組	48

4. シンポジウムの開催

近畿地区 7 高専連携シンポジウムの開催	50
災害時に役立つ乗り物コンテスト 2017 結果報告	56
災害時に役立つ乗り物コンテスト 5 年間の成果報告	58

5. 有識者懇談会

有識者懇談会 開催実績	66
平成 28 年度有識者懇談会 議事録	67

資料

防災リテラシー受講状況・防災士資格取得状況（学生・教員）一覧	89
明石高専「防災リテラシー」シラバス	90
舞鶴高専「防災リテラシー」シラバス	91
奈良高専「防災リテラシー」シラバス	92
和歌山高専「防災リテラシー」シラバス	93
大阪府立大学高専「防災リテラシー」シラバス	94
神戸市立高専「防災リテラシー」シラバス	95
近畿大学高専「防災リテラシー」シラバス	96
新聞掲載一覧	97
その他メディア掲載一覧・論文一覧	98
取組年表	100
大地震対応マニュアル 明石高専版、和歌山高専・英語版	103
News Letter vol.1（平成 25 年 8 月発行）	104
vol.2（平成 26 年 3 月発行）	106
vol.3（平成 27 年 8 月発行）	114
vol.4（平成 28 年 3 月発行）	118
あとがき	122

ごあいさつ

明石工業高等専門学校

校長 笠井秀明

平成 24 年度より、大学間連携共同教育推進事業の一つとして、進めておりました、「近畿地区 7 高専連携による防災技能を有した技術者教育の構築」が平成 28 年度末をもって終了します。明石工業高等専門学校（代表校）、舞鶴工業高等専門学校、奈良工業高等専門学校、和歌山工業高等専門学校、大阪府立大学工業高等専門学校、神戸市立工業高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校が本事業に取り組み、さらに、ステークホルダーである兵庫県、明石市、神戸市、寝屋川市、大和郡山市、御坊市、舞鶴市、名張市、公益社団法人兵庫工業会とも多様な協働を進め、実を結びましたことを光栄に思います。

兵庫県南部地震をはじめとする大規模自然災害から復興した経験を持つ 7 高専が協働で、災害時にリーダーとして活動できる防災技能をもった技術者教育を行う、というのが事業の目的であり、高専生の特徴である実践的な問題解決力を活かしながら能動的に防災・減災に取り組み、安全・安心まちづくりに中核的な存在として活躍する人材育成を目指しました。

このプログラムは、防災リテラシー教育、コンペティション、「人とのつながり」再生プロジェクト、救急救命講習、防災リーダー研修、災害時緊急無線などで構成されています。防災リテラシー教育では、平成 26 年度より、防災の基礎を学習する科目として開講し、これまでに 7 高専で約 3,300 名の学生受講実績があります。また、この取り組みを積極的に推進するため、平成 27 年度にテキスト「防災リテラシー」を出版し、活用しております。

防災リテラシー教育の柱は、専門的な技能習得に先立ち、低学年層からのエンジニアとしての教養人育成です。また、安全・安心まちづくりのために、公共団体や企業などで防災・減災の中核的な存在として活躍する人材育成も重要視しています。社会の中で役立つ防災知識、リスクマネジメントや事業継続計画（BCP）等の構成によって、災害時に自分や周囲の人々の「身を守る」知識を習得し、就職後、社会人として社会の中で実践的に行動できる人材育成に力を入れています。実践的な問題解決力を活かしながら能動的に行動できる人材育成を目標に、学生の能動的な学習に加え、地元消防局の協力を得て救急救命講習の実施を促進するなど、体験に基づく知識修得も実施しています。

この人材育成に対する質保証としては、防災士（NPO 法人日本防災士機構の認証資格）の取得が一つと考えられますが、防災リテラシー科目受講修了生には、学習の到達目安の一つとしても防災士の資格試験を推奨しています。平成 26 年度より、毎年 100 名以上の防災士が近畿地区 7 高専に誕生し、これまでに 7 高専で 392 名の防災士（高専生防災士）が誕生しています。また、56 名の教員が防災士の資格を取得しています。

7 高専では、これまでの活動を昇華させ、今後も自立した形で継続して防災教育に取り組んでいく予定です。

最後に、本事業を推進するにあたり、ご協力ご支援を賜りました皆様に、この場を借りまして、厚く御礼を申し上げます。

ステークホルダーごあいさつ

兵庫県・防災監 大久保 博章

平成 24 年度よりスタートした本大学間連携共同教育推進事業において、代表校の明石工業高等専門学校はじめ 7 つの学校が、その特色を活かした防災リテラシー教育を推進されたこと、誠に喜ばしいことです。県内でも代表校で行われた、防災士資格の取得、地元自治会との合同防災訓練等が地元紙記事として度々取り上げられるなど、高等専門学校に対する地域の関心の高さがうかがわれました。

兵庫県では、「阪神・淡路大震災の経験と教訓は忘れない、伝える、備える、活かす」を合い言葉に、南海トラフ地震等大規模災害に備えて、防災減災施策に取り組むとともに、県民の「自分の命は自分で守る」取組の促進、自主防災組織等による防災訓練や災害時要援護者の避難等への支援を行っています。

災害から被害を減らすためには、地域での普段からの取組が欠かせません。今回の事業により実践的な問題解決力を持つ学生のみなさんが防災を学び、地域において活動をしていただいたことを非常に頼もしく思います。各校におかれましては、これからも有能な人材の育成に携わっていただくとともに、学生のみなさんも卒業後は地域での防災の活動に積極的に関わっていただくことを期待します。

明石市総合安全対策局・局長 小西 敏敬

平成 24 年度よりスタートした「近畿地区 7 高専連携による防災技能を有した技術者教育の構築」への取組みが、多くの成果を得て事業終了を迎えられましたことをお喜び申し上げます。

特に、防災リテラシー教育が災害時にリーダーとして活動できる人材、多くの防災士を輩出したことは大きな成果であると考えております。

また、防災士の資格を持った学生有志の防災グループ「D-PRO135°」による地域の防災マップ作りへの協力、小・中学生を対象としたゲームによる防災学習の実施など、習得した知識、技術が地域の防災活動支援に実践的に活かされていることは、まさに防災リテラシー教育が着実に社会に貢献した証と思われまます。

この度の取組みは、本市においてもステークホルダーとして、市職員の講師派遣など、明石高専との協力関係を築く機会となりました。

災害時の「自助」「共助」の必要性が強く求められるなか、本市では地域防災力の向上を図るため、防災・減災事業に取り組んでいます。今後も将来の地域防災の担い手となる人材の育成と地域の防災活動への積極的な参加・協力にご尽力をいただくとともに、引き続き本市との連携協力をお願い申し上げます。

公益社団法人 兵庫工業会 常務理事 事務局長 荒木 俊光

平成 24 年度の事業発足以来参加させていただきました一人として、5 年間にわたりご担当された方々へのご苦勞をねぎらい申し上げますと共に、様々な面で具体的成果を出されたことにつきまして敬意を表します。

本事業は、卒業後、日本のものづくりを担う工業高等専門学校の学生の方々に対して、きちっとした防災知識を身につけていただくと共に、防災意識を高めていただくために始まりました。

過去に類するもののない新しい取組みであるため、カリキュラムやテキストの作成には、大変ご苦勞されたと思います。一方で、学術の方のみではなく企業経験の豊富な方の参画も得て作成された結果、より実践的な内容に仕上げていただくことができました。特に、昨今の巨大な自然災害を経験した国内企業が強く意識するようになったサプライチェーンの維持に関して、BCP 等の考えも盛り込んでいただいた点は、企業が即戦力として期待する高専生の基礎知識として役立つものと考えます。

学生の皆様が防災に関わる知識をしっかりと持てたことは防災士の資格取得につながったと思いますし、加えて、教員の方々も資格を取得されていることも本事業の大きな成果の一つであると考えます。

このような地道な教育活動が日本のものづくりを支える一助となります。今後も弛むことなく続けていただきますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。関係された皆様、大変ご苦勞様でした。